

9 見せましょう！「おいでまい」の底力を！！ ～重点推進地域 綾川町の取り組み～

■ 綾川町「おいでまい」栽培農家 ■

(中讃農業改良普及センター 松浦 寿 ○山田浩三 原井則之 高八 弘 片桐弘樹

山地茂伸 三木 洋 山田千津子 杉村隆之)

●対象の概要

高温登熟性に優れた県オリジナル水稻新品種「おいでまい」は、平成 23、24 年産の試験栽培で一定の評価を得て、「外観品質 1 等、玄米タンパク含量 7.5%以下」を目標にブランド化を図ることとなり、栽培面積の拡大が求められた。

本格生産となった平成 25 年産は、一定の面積を有し集中的な生産振興を図る「重点推進地域」と「公募による一般栽培」の二通りの推進により 600ha 程度の栽培が計画された。

重点推進地域には、①県内有数の良質米生産地帯であること、②平成23、24年産試験栽培が良好であったこと、③CE荷受が可能なこと、④地域全体で品質・食味向上に取り組むことでブランド化が可能な地域であることなどから、綾川町全域が選定され、450haを作付推進目標として、関係機関が一体となって、栽培農家の理解と協力を求め、作付面積を積み上げた。

●課題を取り上げた理由

「ヒノヒカリ」などから一斉に品種転換を図るため、「おいでまい」の品種特性を十分把握しつつ、時期を逸しない適正管理が求められた。このため、実証ほなどの設置・調査を通じた、「より細かな適正管理」の支援が重要となった。

また、綾坂地区広域育苗センターでの健苗育成や綾歌南部CEでの適正荷受などの支援も重要で、JA綾坂地区営農センターほか関係機関との十分な連携が必要となった。

●普及活動の経過

1 普及・推進体制の整備

JAなどと連携し、実証ほや栽培基準田（JA葉

色調査ほ場）の現地巡回、生育調査、資料作成などを積極的に行った。

表-1 現地巡回・調査、情報提供などの概要

5/下～6/中	適正播種、健苗育成支援
6月 3～7日	初中期栽培管理講習会（8会場）
7月 1日	植付調査、栽培基準田看板設置
7月上旬	情報提供（葉いもち対策、水管理）
7月10日	田植え後巡回（田干し指導）
7月24～29日	現地巡回（最高分げつ期調査）
7月30日	綾歌南部CE運営委員会
8月 6～12日	穂肥診断
8月上旬	情報提供（穂肥診断、出穂期防除）
8月10～12日	広報無線（本田防除）
8月27～9月2日	出穂期調査、葉色調査
9月上旬	情報提供（カミ防除、適期収穫）
9月24～26日	現地巡回（成熟期調査）
10月初旬	広報無線（水管理：走り水）
10月上旬	現地巡回（適期刈り取り）
12月16日	栽培講習会、品質・食味コンクール
1月10日	栽培基準田調査結果報告会

2 栽培基準田（JA葉色調査ほ場）の現地巡回

綾川町内の27ほ場に栽培基準田を示す「ピンクの看板」を掲示し、「おいでまい」の周辺農家や消費者への普及推進を図るとともに、適正管理を支援した。また、高品質・安定生産のための生育・品質調査を実施し、その結果の報告会を開催した。



JA職員と栽培基準田の生育調査を実施

3 実証ほの設置と現地巡回

1 等米の安定生産技術確立のための施肥改善実証ほや、米の食味ランキングで特A評価獲得を目指した食味向上実証ほなどを設置し、適正管理を支援した。

4 栽培管理情報の提供や広報無線の活用

7～9月のJA訪問日を活用し、その時期毎の病虫害防除や水管理など栽培管理のポイントのチラシを作成・配布した。また、広報無線を活用し、本田必須防除や適正な水管理を呼びかけた。



栽培管理情報の提供

●普及活動の成果

1 栽培面積の確保と高い1等米比率の達成

栽培農家の「おいでまい」をブランド米に育てる」という強い意欲と、関係機関が連携して基本技術の励行を支援した結果、面積は目標を上回る481.5ha（県内全体の73%）が作付けされた。

倉前検査の1等米比率は91%で、綾歌南部CEの荷受け分を加えると96%の驚異的な数字になった。

表-2 「おいでまい」栽培の概要 (ha、%、名)

区分	23年産		24年産		25年産	
	面積 (農家数)	1等米 比率	面積 (農家数)	1等米 比率	面積 (農家数)	1等米 比率
中讃	5.1 (7)	100	16.1 (15)	97	584.2 (1,257)	94
うち 綾川町	0.94 (2)	100	5.0 (4)	100	481.5 (1,089)	96
県計	9.9 (15)	67	28 (29)	94	657.3 (1,367)	92

注) 25年産綾川町の1等米比率はCE+倉前検査実績

2 栽培基準田 (JA 葉色調査ほ場) の調査結果

坪刈りによる品質・食味調査結果では、外観品質は1等を確保できたものの、やや過剰施肥の影響もあり

玄米タンパク含量は平均7.9% (乾物換算、以下同様) と、目標の7.5%以下よりやや高くなった。

収量は過繁茂による籾数過多などで青未熟やくず米が多くなり、480kg程度であった。

表-3 栽培基準田の調査結果概要

田植日	出穂期	成熟期	総N量	品質	タンパク	スコア
6/22	8/29	10/8	7.5kg	1等	7.9%	72.9点



栽培基準田調査結果報告会の様子

3 実証ほなどの結果を踏まえたしおりの見直し

①生育前半が過繁茂で経過したことなどから、基肥を減肥、②葉いもち対策として、いもち病常発地帯は7月中旬に予防的効果のある粒剤の必須防除を追加、③きつい中干し、早期落水など水分ストレスを与える水管理は避けることなど、栽培しおりを一部見直し、栽培農家に対し基本技術の励行をより一層推進することとした。

4 綾川町学校給食に「おいでまい」デビュー

25年12月から「おいでまい」が提供されており、生産と消費の一体的な取組みがなされている。

●今後の普及活動の課題

1 適地適作と栽培面積の確保

26年産は、いもち病を懸念して中山間地などでは作付けが回避され、綾川町内では約36ha減の446haの作付けが見込まれている。今後、栽培適地マップを基にした栽培面積の確保が求められる。

2 基本技術の励行による高品質・安定生産

25年産の落等理由は充実不足、カメムシ、籾混入などで、適期に適正な管理を行うことでほぼ解決できる内容のため、JAと一層連携し、講習会の開催、情報提供などで基本技術の励行を推進・支援する。

3 栽培基準田の設置と消費者へのPR

栽培基準田に看板を設置し、栽培農家の意識向上や消費者へのPRを図るとともに調査データを蓄積し、より良い「栽培のしおり」の一助とする。